

NEW BUSINESS アカデミー

1) NEW BUSINESS アカデミーの狙い

- (1) 広い意味でのネタ探しをどうしていけばいいのか
情報に対して、アンテナを高く張り、いかに、ビジネスとしての嗅覚を高めていくにはどうするのか。
- (2) ターゲット市場の設定とマーケティングの実践
仮想ターゲット市場をどう設定して、何を調査し、ターゲット市場を押さえていくのか？
- (3) 新規事業開発の成長段階
phase1(企画・テストマーケティング)⇒phase2(インキュベーション段階)⇒phase3(事業の安定期)と進む中で、どのようにマイルストーンを設定すればいいのか、マイルストーンで考えるべき要点や投資すべき対象、マーケットのズレの調整など、ビジネスモデルの変革をどのように捉えて、進めているのかの事例研究など。また、撤退基準の在り方などを議論していく。
- (4) ビジネスモデルの策定のポイントと構造の理解
投資型モデルなのか、変動費型モデルなのか、限界利益、貢献利益の理解と営業キャッシュフローを
営業利益=EBIT(Earnings Before Interest and Tax)
税引き後利払い前利益=営業利益×税率=EBIAT(Earnings Before Interest After Tax)
償却前利払い前利益=EBITDA(Earnings Before Interest and Tax and Depreciation and Amortization)
の理解と共に。
- (5) ビジネスモデルの変革のタイミング
実際にスタートしてから、2～3回はマイルストーン時まで、ビジネスモデルを想定のままではなく、変革をしていく必要になるケースが多い。そのタイミングと発足力をどう身につけるか？

2) 参加企業

■議長団

北上 真一氏 静岡県立大学 経営情報学部 特任教授

黒木 敏英氏 全日本空輸株式会社 デジタル変革室 企画推進部長

■メンバー企業

株式会社ソフトロード

株式会社ハレックス

株式会社オカムラ

株式会社JTBビジネスイノベーターズ

アサヒビール株式会社

株式会社ジインズ

学校法人東京理科大学

味の素株式会社

株式会社リクルートテクノロジーズ(2)

住友電工情報システム株式会社

トライビュー・イノベーション株式会社(2)

日本ユニシス株式会社

東京ガス株式会社

AJS株式会社

ハートコア株式会社

アイエックス・ナレッジ株式会社

日鉄ソリューションズ株式会社

株式会社リクルートテクノロジーズ

インテル株式会社
日本ハムシステムソリューションズ株式会社
(22社24名参加)

3)進め方

■開催日程(隔月開催、奇数月の第2金曜日)

- 第1回 7月12日(金) 16:00~19:00
- 第2回 9月13日(金) 16:00~19:00
- 第3回 11月 8日(金) 16:00~19:00
- 第4回 1月10日(金) 16:00~19:00
- 第5回 新型コロナの影響により、延期(時期未定)
- 第6回 新型コロナの影響により、延期(時期未定)

■開催場所:アイオス五反田・本館会議室

141-0022 東京都品川区東五反田1丁目10番7号

■開催形式

180分の前後半の2部形式

(1)前半90分:講師による講演

(2)後半90分:講師を交えて、ゼミ形式の質疑応答と各社の実情を踏まえた意見交換

4)2019年度の実施概要

■第1回 2019年7月12日(金) 16:00~19:00

『インバウンド消費が創り出すニュービジネス!』

～知恵と工夫で拡大するインバウンド消費を掴め～

【講師】吉川廣司様

一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会(JSTO)事務局次長

1981年(株)日本交通公社(現JTB)入社。北海道にて事業企画、インバウンド、MICE営業を経て、2000年本 社企画部CRM課長、ブロードバンドマーケティング戦略室長などマーケティング分野を長く担当。2008年JTBとJCBの合併企業(株)J&J事業創造に出向、開発担当執行役員・JSTOプロジェクト長(現職)。2013年一般社団法人ジャパン ショッピングツーリズム協会(JSTO) の設立時より参画、企画本部 本部長 兼 事務局次長を兼務。農水省のお土産農産物受検円滑化事業を受託、空港受け取り、代行受検、海外告知 など各種実証事業展開中。インバウンドの需要喚起とマーケティングに関する講演を全国で開催してる。

【概要】

ラグビーワールドカップ2019を契機に欧米からの訪日客が拡大し、6000万人を目指すインバウンドの新たなフェーズが始まります。昨今 各地で新たなインバウンド向けのお土産や、郷土料理、各種サービスなどの開発が動き出しました。拡大する訪日客の快適な旅をサポートし、ショッピングのハードルを下げてインバウンド消費を拡大する新たな商品開発やサポートや観光のサービスが求められ、それが新たなビジネスとして育ちつつあります。各地で芽吹くその一端をご紹介します。

■第2回 2019年9月13日(金) 16:00~19:00

『バイアウト・ファンドを活用した企業成長と企業再生』

【講師】植田 兼司様

いわかぜキャピタル(株)代表取締役社長

東京海上で、25年間国内外の資産運用を仕事とし、その後、「ハゲタカ」という名で知られた米系投資ファンドのリップルウッド・ジャパンに移った。リップルウッド・ジャパンでは、8年間マネージング・ディレクター・代表取締役として、数々の企業の合併や買収取引を手掛けた。

【概要】

バイアウト・ファンドは、プライベート・エクイティ(PE)ファンドの一翼を担うものである。機関投資家等から長期にわたる投資のコミットメントを取付け、何らかの要因で困った状況にある企業、或いはもともと成長したいと考えている企業を友好的に買収し(50.1%以上)、経営権を握った上で対象企業に入り込み、経営陣とともに企業価値向上に注力する。そして十分なバリュアアップの後にIPOや第三者売却のEXITを出て、投資家に配当を還元する。ファンドレイズ、ディールソーシング、投資の実行、そして投資後のバリュアアップとステージを分けながら、バイアウト・ファンドの実務を紹介する。

■第3回 2019年11月8日(金) 16:00~19:00

『科学的意思決定の方法論』

【講師】山上 伸様

東京ガス株式会社アドバイザー

1979年東京ガス(株)入社。90年コーネル大学にてPh.D.取得。総合企画部事業化推進グループマネージャー、関連事業企画部、(株)関配(出向)を経て、IT活用推進部長、エグゼクティブ・スペシャリスト エネルギーソリューション本部総合エネルギー事業部長、常務執行役員 エネルギー生産本部長、常務執行役員 IT本部長を歴任。2018年より現職。

【概要】

ビジネスの上では様々な局面で意思決定を迫られる。世の中には様々な情報が流通する中で、それらを巧みに活用するものとそうでないもの間には、意思決定の質に大差がつく。今回は数理科学的な手法がいかに意思決定に役立つかを例示するとともに、そこからいかに活用するかを議論する。

■第4回 2020年1月10日(金) 16:00~19:00

『レベニューマネジメント』

【講師】北上真一様

静岡県立大学経営情報学部経営情報学科 特任教授
経営情報イノベーション研究科 特任教授(兼務)

【概要】

在庫の繰り越しができないビジネスにおいて、需要を予測して売上高(レベニュー)の最大化を目ざした販売の管理方法である。近年、IT技術の進歩により、高度化がすすんでいる。供給量が限定される飛行機やホテル業では、完売して欠品になることや売れ残りが生じることがある。この管理方法により、投げ売りをせず売れ残りを防ぎ、適切な時価設定など企業収益に寄与するものである。

第5回、第6回は、新型コロナの影響により、延期(時期未定)

以下は予定稿である。

■第5回

『シリコンバレー式教育システム・社会実装システム』

～失われた30年 何故日本経済は停滞を続けるのか～

【講師】永井道生様

日本電気通信システム(株) ビジネス開発本部長

【概要】

氏は、携帯電話開発・企画(当時の最先端技術の塊、新サービス事業の勃興期)を前線で経験し、携帯後は、社内起業家(イントレプレナー)として、社内の新ビジネス立上げをミッションとすると同時に、他社のベンチャー立上げを支援するというプレイングマネージャーを経験。昨年までの4年間の赴任で経験した、USシリコンバレー等でのベンチャーの最先端状況、進化する初等教育現場の実態等を踏まえ、現場(技術者層から経営層の多レベル)で

の活動から得られた最先端のアクティビティをご紹介するとともに、平成30年間の日本経済停滞の原因考察と対比させながら、大変革を迎える今後10年における日本復活のヒントを提言頂く。

■第6回

『AI関連のビジネスの可能性』

～AI技術の最先端の状況(state-of-the-art)を俯瞰することで、
隠れた事業の種をさぐる～

【講師】加納敏行様

大阪大学情報科学研究科 教授

大阪大学NECブレイン・インスパイアード・コンピューティング協働研究所副所長

【概要】

加納様は、総務省の次世代人工知能研究開発「人間の脳の認知メカニズムに倣った脳型認知分類技術の研究開発」のプロジェクトリーダーである。このプロジェクトの特徴は、非常に広い異なる研究分野の教授・准教授(総勢20名)が一つの目的(遠隔精神疾患医療診断支援システム)に向けて研究していることである。このプロジェクトは、2018年から3年間で、IoTインフラ運用最適化とそれを用いた遠隔精神疾患医療診断支援システムの実現を目指している。阪大の生命機能研究科、医学部、工学部、情報科学科の総勢20名の教授、准教授が参加。異なる研究分野の連携活動だからこそ見えて来るAI事業領域の新しい可能性について講演していただく。